

2010 年度 景観・デザイン委員会 第 1 回親委員会

議 事 要 旨

日時：2010 年 7 月 1 日（木） 16:00～18:30

会場：土木学会 D 会議室

出席者（敬称略）：

＜委員＞田村旧委員長、天野新委員長、吉川委員、屋代委員、小出旧委員、福井新委員（旧幹事）、
石井新委員、山下新委員、上島新委員

＜委員兼幹事＞佐々木幹事長、中井旧幹事、丹羽幹事、二井幹事、横山新幹事、伊地知新幹事、
沖田幹事、山口新幹事、宮下幹事（連絡担当）

議題：

- 1 委員長挨拶（田村旧委員長）
- 2 新・旧委員および委員兼幹事紹介
- 3 新委員長挨拶（天野新委員長）
- 4 各小委員会活動報告および今年度の活動について
- 5 土木学会による委員会活動評価について
- 6 その他
- 7 意見交換

資料：

- ・議事次第
- ・委員会構成メンバー表（平成 21 年度・平成 22 年度）
- ・資料 1 小委員会活動報告【論文集】
- ・資料 2 小委員会活動報告【研究発表会】
- ・資料 3 小委員会活動報告【デザイン賞】
- ・資料 4 平成 21 年度会計報告、平成 22 年度予算計画
- ・資料 5 デザイン賞 10 周年記念イベントに関する検討状況
- ・資料 6 土木学会による委員会活動評価について
- ・社会に向けた活動事例の把握について
- ・土木学会学術文化事業寄付申込・助成金交付内規

議事：

1 委員長挨拶

(田村旧委員長) 前委員長より年齢が上ということもあり、つなぎのつもりで引き受けたが、結果的には3年にわたって務めることとなった。真面目に務めたと思うが、予定されている年中行事で精一杯だったようにも思う。委員長も若返るので、今後に期待したい。

2 新・旧委員および委員兼幹事紹介

- ・天野教授を新委員長とすることが承認された。
- ・参加した委員・幹事により、自己紹介を行った。

3 新委員長挨拶

(天野新委員長) 親委員会・各小委員会については、過年度より継続した活動が十分行われており、心配していない。これから取り組みたいこととしては、景観に関する資格を設けられないかと考えている。景観を勉強している人がプロポーザル等で景観の仕事をとれるようにしたい。実際に何が出来るかはまだわからないが、少し活動してみたい。

「美しい国づくり政策大綱」が出て以来、景観は内部目的化された。それ自体は望ましいことであるが、結果的には景観が業務として発注されることがなくなり、実態として景観に割く費用が減少している状況にある。この状況の打開に向けて努力をしたい。

4 各小委員会活動報告および今年度の活動について

【論文集関連】：中井幹事・山下委員

- ・資料に基づき昨年度の報告がされた。
- ・景観・デザイン論文集第9号を査読中。現小委員会は12月まで活動する。
- ・全体としての登載率は6割となっている。その中で計画・マネジメント部門の登載率が低くなっているが、これは論文としてのまとめ方の難しさや評価の難しさ、また査読者が慣れていないという問題点もあると思われる。
- ・土木学会論文集の再編によって、D1編集小委員会が発足した。
- ・新システムへの切り替えは当初6月であったが、7/20に延期された。
- ・新システム移行後は、景観・デザイン委員会WEBからのアナウンスやリンクが必要である。
- ・運営はメール審議が原則とされているが、これまでの査読体制では年4回の会議を開催してきた。今後も特に返却論文や判断が難しいものについての査読に関する議論の場を設けられるように配慮してほしい。

【研究発表会関連】：丹羽幹事・上島委員

- ・資料に基づき昨年度の報告がされた。
- ・優秀講演賞の審査に課題があるのではないかと。投稿論文と発表が著しく異なっている場合があることや、審査者である司会者は他の発表と比較することが出来ないこと等である。(天野)
- ・研究発表会における予稿はある程度簡単なものでも問題ないとするが、位置づけについては検討の余地がある。(佐々木)
- ・優秀講演賞は、「若手の発表を奨励する」意味を審査者に十分理解していただく必要がある。今

年度の運用に向けて小委員会で検討していくこととする。

- ・平成 22 年度の研究発表会は東京大学で開催するが、会場費が全部で 40 万円程度となると思われる。
- ・シンポジウムは市町村や現場の人が興味を持って集まってくれるようなものにしたい。あわせて、発表会ではシンポジウムのテーマに合ったセッションが 2 つくらいつくることが望ましい。動員をかけるようなことはしないが、個別にかけ合って発表者を集めたい。
- ・シンポジウムの位置づけについて検討が必要である。熊本大学、九州産業大学ではシンポジウムの費用は大学が担っていた。また、研究発表会と一体とすると、発表会の参加者とのダブルカウントが出来なくなる。一方、大学等との共催とすると、学会でカウントされる参加者は共催数で割ることになる。これらも企画の枠組みを検討する際に考慮したい。
- ・デザイン賞受賞者に対し、論文やポスターでの参加を編集小委員会より呼びかける。

【デザイン賞関連】：二井幹事

- ・エントリー期間延長、各方面への呼びかけの結果、35 件のエントリーを確保できた。
- ・今年度の協賛金は 90 万円となったが、今後の減少を見据えた対応が必要である。
- ・協賛金に対する学会管理金の免除について、親委員会より理事宛に正式に要望を行う。また、協賛団体から「管理金が徴収されることは想定していない」と付言してもらうことも有効と考えられる。
- ・デザイン賞受賞実績のプロポーザルでの得点化に向けた活動が必要である。
- ・小規模の事業がもっと出されることが望ましい。
- ・まちづくりについては、黒川温泉の例のように「全体のまちづくりは素晴らしいが土木デザインは今一歩」というものもあり、時間の経過とともにさらに状況がよくなる可能性もある。2 度目の受賞を可能にするなど、違う扱いを検討する必要があるのではないか。
- ・応募数が増えるのは望ましいことだが、委員の負担が大きくなり、移動にかかる経費も参加費より高くなる場合も多いというジレンマを抱えている。全ての作品を見に行くことが難しい場合、7 割程度を視察するという状況になる可能性もある。
- ・現場設置用プレートが比較的売れている。引き続き受賞者への営業・PR が必要である。

【デザイン賞 10 周年記念事業関連】：福井委員

- ・資料に基づいて、フォトコンテストの案について説明された。
- ・選考委員に写真家が必要かは今後検討する。
- ・夏から来春を募集期間とするため、今年度にはそれほど予算を必要としない予定である。
- ・高等学校・高等専門学校については、ジュニアの部へ含めるかどうか検討中である。
- ・歴代の審査委員長や主査による公開座談会との連携や、コンテストにあわせたシンポジウム、土木学会誌への連載等も検討したい。

【その他活動について】：佐々木幹事長

- ・昨年度まで活動していた政策提言に関する小委員会は、別途活動を進めることとし、小委員会としての継続は行わない。
- ・デザインワークショップについては、昨年度重山先生がWEB で活動している。発足当初の活

動目的は達成していると考えられ、一区切りと考える。(第2回委員会承認事項)

- ・天野新委員長の提案を踏まえ、委員会として教育や資格化について検討するためのワーキングの立ち上げは検討してもよいのではないかと考える。

5 土木学会による委員会活動評価について：宮下幹事

- ・委員会活動評価の仕組みについて報告した。
- ・委員会内部で開催している会議への参加者やデザイン賞の応募者、デザイン賞選考のための調査を、学会活動への参加者としてカウントしていくようにする必要がある。

6 その他

【社会に向けた活動事例の把握】：佐々木幹事長

- ・土木学会から、社会に向けた活動事例の提出を求められている。委員会の活動評価とは関わらないとのこと。
- ・フォーマットは佐々木が持っているので、活動事例のある委員は申請してもらいたい。
- ・デザイン賞については提出しておく方がよいだろう。

【土木学会学術文化事業寄付申込・助成金交付内規】：天野新委員長・二井幹事

- ・デザイン賞でいただいている協賛金の一部を土木学会の一般的な費用に充当されるのは不服であり、しっかり異議を申し立てるべきである。
- ・財団は寄付としてはお金を出したくないため、寄付と協賛金を選択できる申込書にして欲しいと学会に依頼したが、内規の変更が必要であるとの理由から受け入れられなかった。

7 意見交換

(小出旧委員) 都市計画にはシステム・プロセス・デザインの議論が必要と思っているが、システムとプロセスの議論ばかりがされていて面白くないと日ごろ感じている。その意味でこの委員会の活動は学生の参加の機運も高く、素晴らしいものと感じている。

景観計画の業務は増えている。しかしこれも許認可の手続きをするための仕組みとなっており、デザインの話にはなりにくく、ブレイクスルーが必要である。銀座（地域によるルール化）や自由が丘（民間委員会による審査）、芦屋（全地域景観地区）など、先進的な取り組みも出てきているが、景観重要公共施設の枠組みに市町村があまり興味を持たない現状がある。土木と建築のデザインがもっと連携できればと思う。

(伊地知新委員) 景観計画等の業務を執行してあるべき姿とのギャップにコンサルタントとして歯がゆい思いをしている。

(佐々木幹事長) 学会という場を活かして、意見を強くして発表してほしい。

(山口新委員) 都市の構想について議論することが大事であると感じている。そういうことを研究発表会で行ってもよいのではないかと考える。

(石井新委員) 山梨を環境学園都市に！とことあるごとに発言している。いろんなところで発言していると政治家と知り合いになったりして活動が展開していく。継続は力なりと思って今後も続けていきたい。

(横山新委員) こういう風に話をする機会があると、それぞれが個別に戦っていることがわかる。

発表会の場で話をし、議論を形に残していくことが大事であると思う。
(吉川委員) 様々なプロジェクトに関わっていると、首長の動きに右往左往させられることがあるが、戦っていきたい。

以 上